

豊後高田市学校組織力向上計画(令和5年度版)

1 学校マネジメントの深化の取組

◆学校マネジメントにおける課題について

- 令和の日本型教育を実現する学校経営ビジョンの明確化と教職員との共有
- 学校がめざす育成する資質・能力を意識した教育活動の実施と各教育活動の連結
- 小規模校における組織のあり方とミドルリーダーの育成
- 各主任、コーディネーターの「役割」の理解と適切な業務分担、学校スタッフとの効果的な連携
- 管理職のアセスメント力・ファシリテーション力の向上

◆深化のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- | | |
|--|--|
| <p>(1) 教育目標や重点目標等の設定に関する充実策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年度を跨ぐPDCAサイクルの推奨。夏季休業中の有効利用促進。 ② コロナ禍で得られた知見を「共有知」とし重点方針等を設定する。 ③ 中津教育事務所と連携し、重点目標の「資質・能力」を1つに焦点化し、「一転突破、全面展開」とする。 | <p>(2) 検証・改善サイクルに関する充実策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年度を跨ぐPDCAサイクルのスケジュールを示す。 ② 学校運営評価委員会による学校訪問を行う。 ③ 学校運営協議会に指導主事が参加し、検証・改善について助言を行う。 |
| <p>(3) カリキュラム・マネジメント推進のための支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 文部科学省指定「カリキュラム・マネジメント調査研究校」3校が作成した手引きを用い、全校で主旨を確認するための研修を実施する。 ② 総合的な学習の時間の充実を図る。 ③ 教務主任会で、カリキュラム・マネジメントの各校の取組を共有、協議し、自校で活用する。 | <p>(4) 主任等を効果的に機能させるための支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校規模に応じた主任活用の好事例を校長会で提示する。 ② 主任等ミドルリーダーを対象とした外部講師を招聘するマネジメントリーダー研修会を年6回程度実施する。 ③ 主任と管理職が意見交換する場を定期的にもち、参画の機会をつくる。 |

2 「チーム学校」推進の取組

◆「チーム学校」推進における課題について

- 各種委員会の適時開催、教育相談コーディネーター、特別支援教育コーディネーターの実働等校内体制の改善・充実
- 関係機関との連携に対する判断力、報告・連絡・相談の徹底
- 教員外の職員(特別支援教育支援員、図書館指導員、外国語指導員等)との連携

◆推進のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- ① 教育委員会教育相談チームによる年3回の「チーム学校」推進に係る学校訪問を実施し、助言を行う。
- ② 校長会等で「チーム学校」推進の好事例を提示する。
- ③ SSW,SC等教育相談連携会議を年3回実施し、専門家側からの学校との連携を推進する。

◇学校事務職員や専門職員の参画推進の取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- ① 各学校の運営委員会をZOOMで行い、学校支援センターの担当職員が参画できる取組を推進する。
- ② 栄養教諭、学校栄養職員、養護教諭と教育委員会が連携し、食育指導、健康指導等を行う。

3 学校における働き方改革の推進の取組(学校マネジメントの視点から)

◆推進のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- ① 長期、中期、短期スケジュールの可視化による計画的、効率的な業務遂行実現等、「働きやすさ」につながる取組事例を校長会で共有する。
- ② 学校行事等実施後に、取組の分析等を行い、改善策を取り入れた次年度計画を作成するなど効果的、効率的なカリキュラム編成作業を実施する。
- ③ 「当たり前」の見直し「目的・方法」の再検討、共有、定期的な管理職等による個人面談等を実施し「働きがい」につながる目標管理、評価を行う。

◆ICTを活用した業務改善の取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- ① 校務支援システム、市内統一の一斉メール配信システムの運用。
- ② 校内の会議におけるペーパーレス化、指導案、教材等の共有(共通フォルダの活用)。
- ③ オンライン会議と対面会議の適切な設定。

4 校種間連携推進の取組

◆校種間連携における課題について

- 架け橋プログラム(接続カリキュラム)の理解と小学校内での組織的な取組。
- 保育園との連携。
- 中学校ブロックの更なる連携と中一ギャップに対する取組。
- 情報の引継ぎ

◆推進のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

(1) 保幼小連携の取組

- ① 幼小連携協議会を年2回実施し、情報共有、接続期カリキュラムの検討を行う。
- ② 幼稚園2園の公開保育参観、小学校の学校公開日への参加等を推進する。
- ③ 保育園との情報交換の場を設定する。

(2) 小中連携のための取組

- ① 年間3回の小中連携協議会を開催し、重点目標や課題を共有、協議する。校内研、学校運営協議会へ相互参加する。
- ② 円滑な接続のため、年度末、年度初めの中学校ごとの情報交換会を複数回開催する。
- ③ 情報を確実に引き継ぐための各種連携シートを充実させる。

5 「地域とともにある学校」推進の取組

◆学校・家庭・地域の協働における課題について

- 令和の日本型教育(主体的・対話的で深い学びの実現、個別最適化学習、協働的な学び等)に対する地域、保護者への周知、理解不足
- 全幼稚園、小中学校に設置している学校運営協議会の質的向上
- 多様な考え方をもち保護者との協働

◆推進のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

(1) コミュニティ・スクールの推進(または目標協働達成の推進)

- ① 学校運営協議会委員の校内研究会への参加
- ② 小中合同学校運営協議会開催の推進
- ③ 学校教育目標を家庭・地域と共有し、主体的な参画の推進

(2) 「協育」ネットワークの活用

- ① 学校運営協議会への「協育」コーディネーター参画の継続
- ② 各校における地域連携担当者の位置づけの継続

6 大量退職・大量採用時代における教職員の資質向上の取組(人材育成)

◆教職員の資質向上における課題について

- 授業力、生徒指導力、保護者対応力、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応力の向上
- 働きがいを軸とする働き方改革研修への意識改革
- 人間力、コミュニケーション能力の育成
- ICTや情報・教育データの利活用力の向上

◆教職員の資質向上のための取組(各取組の先頭に①などの○囲み数字を付加)

- ① 市内全域におけるCoREFと協働した協調学習、仮説検証型授業研究の推進を強化する。
- ② 管理職が各職員の強みと弱みを把握し、適材適所での業務を担わせ、業務の目的、目標を伝え、進捗状況の確認など助言を行いながら、経験を積ませるとともに、中規模校にメンター制度を試行していく。
- ③ 授業力向上アドバイザー等人事育成を命とするメンバーで学力向上プロジェクトチームを組織し、取り組む。
- ④ 教育委員会において、オンラインによる研修講座「まなびの扉」を年間6回以上実施する。